

「五能線」ロゴ作製



ロゴは、五角形の左下の丸が五能線の起点である秋田県「東能代駅」、右上が終点の青森県「川部駅」。実線は奥羽本線を表したものです。

### 【第19回あきたふるさと手作りCM大賞】 鉄ちゃんて賞『五能線 起点のまち能代』



check it out /



↑↑↑↑  
youtubeで  
動画閲覧可能!

五能線は、秋田県・東能代駅から青森県・川部駅を結ぶ全長147.2キロメートル、43駅のローカル線です。夕景の美しい日本海や、黄金崎不老ふ死温泉、青池(十二湖)、世界自然遺産「白神山地」などの絶景スポット満載です。

一度は乗ってみたい  
ローカル線  
**五能線**  
JR Gonousen Line



Kawabe station stamp

終点  
147KM137M  
川部駅

「五能線起点のまち能代」サイト

「五能線」と「奥羽本線」接続駅の東能代と、能代、向能代、北能代、鳥形、鶴形、富根、二ツ井の8駅で途中下車して、徒歩、バス、レンタサイクル等で楽しめるスポットをご案内します。

能代駅

起点  
0KM000M  
東能代駅

Higashi Noshiro Station Stamp

check it out /



オンラインツアー(体験)で下見!  
秋田県をはじめ、首都圏の特徴あるテーマを  
オンラインツアーで体験できます。



龍の気が満ちる! パワースポットで楽しむ  
米代川オンラインカヌー体験

冬期も楽しもう!  
団体貸切歓迎

- 龍の気が満ちる! パワースポットで楽しむ  
米代川オンラインカヌー体験
- 一度は乗ってみたいローカル線「五能線」  
起点「東能代駅」→ 終点「川部駅」
- 世界遺産【北海道・北東北の縄文遺跡群】  
下見オンラインツアー

大人気ツアー  
詳細は、下のQRコード  
の一覧ページをご覧ください。

check it out /



- 能代市観光振興課 地域おこし協力隊 観光担当 齊藤 常治  
〒016-8501 秋田県能代市上町1-3 TEL:0185-89-2179
- 学びing株式会社 代表 齊藤 常治  
体験ツアー造成&ガイド育成、鉄道ツーリズムで、シティプロモーションや、  
観光誘客、関係人口の創出などのコンサルティングを承ります。  
サイト: <https://manabing.jp/>  
お問い合わせメール: [railfanguide@gmail.com](mailto:railfanguide@gmail.com)

お問い合わせ





五能線 普通列車「GV-E400系」



米代川の夕景をわたるGV-E400系



2002年春の「青春18きっぷ」ポスターで有名な「湯木駅」



リゾートしらかみ「青池」



リゾートしらかみ「樺」

五能線 区間・路線距離(営業キロ):147.2km 駅数:43(起終点駅含む)

- 奥羽本線
- 東能代駅
- 能代駅
- 米代川
- 向能代駅
- 北能代駅
- 鳥形駅
- 沢目駅
- 水沢川
- 東八森駅
- 八森駅
- 滝ノ間駅
- あきた白神駅
- 岩館駅
- 秋田青森県境
- 大間越駅
- 白神岳登山口駅
- 松神駅
- 十二湖駅
- 陸奥岩崎駅
- 陸奥沢辺駅
- ウェスパ樺山駅
- 鱸作駅
- 横磯駅
- 深浦駅
- 広戸駅
- 追良瀬川
- 追良瀬駅
- 轟木駅
- 風合瀬駅
- 大戸瀬駅
- 千畳敷駅
- 北金ヶ沢駅
- 陸奥柳田駅
- 赤石川
- 陸奥赤石駅
- 中村川
- 鱒ヶ沢駅
- 鳴沢駅
- 越水駅
- 陸奥森田駅
- 中田駅
- 木造駅
- 岩木川
- 津軽鉄道津軽鉄道線
- 五所川原駅
- 津軽五所川原駅
- 陸奥鶴田駅
- 鶴泊駅
- 板柳駅
- 林崎駅
- 藤崎駅
- 奥羽本線
- 川部駅

### 【五能線の歴史】

五能線の歴史は、1908年に開業した能代(現在の東能代) - 能代町(現在の能代)間に始まる。米代川の存在などの地理的事項により能代の市街地を外れる形となってしまうと奥羽線に接続するための支線であり、後に能代線(のしろせん)と命名された。

一方、青森県側においても、1918年、私鉄の陸奥鉄道(むつてつどう)が奥羽本線に連絡する鉄道を川部 - 五所川原間に開業した。

日本海沿岸を巡って能代と五所川原を結ぶ鉄道は、旧鉄道敷設法による予定線にあげられ、能代側は能代線の延長として、五所川原側は陸奥鉄道の延長の形で五所川原線(ごしょがわらせん)として、いずれも国有鉄道(当時は鉄道省)の路線として建設が進められ、1924年から順次延長されていった。昭和の大恐慌の影響

で、建設が一時スローダウンしたものの、1936年の陸奥岩崎駅 - 深浦駅間を最後に全通し、五能線と改称された。1927年には、陸奥鉄道が買収・国有化されており、機織駅(現在の東能代駅) - 深浦駅 - 川部駅間が国有鉄道として運営されることとなった。五所川原と能代を結ぶ路線

というのが路線名の由来だが、実際は川部と能代を結んでおり、五所川原を通過して能代へ向かう路線ということになる。

「五能線」『ウィキペディアフリー百科事典日本語版』



五能線 能代駅



「五能線」『ウィキペディアフリー百科事典日本語版』



コースター



缶バッジ



### ふれあい販売

能代観光協会(能代駅構内)では、『五能線起点のまち能代』ロゴ関連のオリジナルグッズを販売しています。また、リゾートしらかみ(能代駅～深浦駅間)、能代駅1番線ホームでも日にちを限定して発売しています。詳しくは、『五能線の旅』サイトの「ふれあい販売スケジュール」のページをご覧ください。



### 五能線「リゾートしらかみ」は、2022年4月1日で運行開始25周年

「リゾートしらかみ」号は全車指定席の快速列車。乗車券と指定席券530円(閑散期は330円)を購入すれば、グリーン券も特急券も不要で、最大約5時間の旅が満喫できる豪華な列車です。五能線が2日間乗り放題の「五能線フリーパス」をはじめ、「青春18きっぷ」や「北海道&東日本パス」「秋の乗り放題パス」で、津軽三味線生演奏、津軽弁「語りべ」実演、津軽伝統金多豆蔵人形芝居や、景勝地の徐行運転、千畳敷駅での下車観光を楽しむための約15分間停車、能代駅でのバスケットチャレンジなど約5時間の列車旅が楽しめます。鉄道は、他の輸送機関に比べてエネルギー効率に優れた地球環境にやさしい輸送機関です。普段、車で旅行している方々もたまにはのんびりと列車の旅はいかがでしょう？

あゆみのリゾートしらかみの

- 1990年 4月21日「ノスタルジックビュートレイン」運転開始
- 1996年 11月10日「ノスタルジックビュートレイン」運転終了
- 1997年 4月 1日「リゾートしらかみ」運転開始
- 2003年 4月 1日「リゾートしらかみ」樺(ブナ)編成運行開始
- 2006年 3月18日「リゾートしらかみ」にくまげら編成投入、3往復の運行となる
- 2010年 12月 4日「リゾートしらかみ」青池編成としてハイブリッド気動車HB-E300系が投入される
- 2016年 7月16日「リゾートしらかみ」樺(ブナ)編成としてハイブリッド気動車HB-E300系が投入される

「五能線」『ウィキペディアフリー百科事典日本語版』



### JR五能線の旅サイト 「リゾートしらかみ」の楽しみ方

「五能線の旅」サイトの「時刻表・運転日」で、自分が乗る日、リゾートしらかみ(樺/青池/くまげら)のどれが走るのか? また、「列車の楽しみ方」で、「車内イベント」をチェックしよう! 「津軽三味線生演奏」「津軽伝統金多豆蔵(きんたまめじょ)人形芝居」「津軽弁「語りべ」実演」は、演奏・実演日が限定です。

#### ●冬期の昼間の乗車に注意!

2020年冬から、五能線では、線路の約13万5,000本の枕木を木製からコンクリート製に交換する「設備強化工事」に着手しました。10年がかりの事業で、毎年12～3月の日中、火～木曜日の週3日間、通勤時間帯を除く9時頃から17時頃まで実施予定です。

↓↓↓↓↓  
check it out /

